

## 掛川工業高校卒業生が制服姿で母校訪問



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・野口貴志1等空尉）は10月5日（水）、静岡県立掛川工業高等学校（掛川市）で行われた長尾尋矢1等陸士の母校訪問に同行した。

これは、長期休暇を利用し隊員が母校を訪問し、教職員や生徒に自衛隊の生活ややりがいなどを伝え、自衛隊に対する認識と理解を深めてもらうことを目的に実施しているもの。

長尾1士は今春、陸上自衛隊一般曹候補生として入隊し、現在は板妻駐屯地（御殿場市）で後期教育訓練を受けている。夏制服の凛々しい姿で、約半年ぶりに母校の正門をくぐった。

教職員への挨拶の後、自衛官採用試験の受験を考えている在校生と面談し、掛川市担当広報官の箕輪勝政1等空曹とともに自衛隊の制度や訓練、生活の様子などを紹介した。

生徒は興味深く話を聞き、積極的に質問すると、長尾1士が丁寧に答えていた。面談の後、生徒は「先輩の話を聞いてとても参考になった。自衛隊を受験して憧れの自衛官になりたい」と今後の意気込みを語った。

次に、在校当時、進路課長だった富永宏教諭と山下友矢教諭に再会し、半年の訓練で成長した姿を披露した。富永教諭は「肉体的にも精神的にも凛々しくなった。長尾は走るのが早かったので、富士登山駅伝に出て活躍する姿を見たい」と、嬉しそうに話していた。

母校訪問を終えた長尾1士は「自衛官として母校を訪問し、先生や先輩に自衛隊の魅力伝えることができ、本当に嬉しかった。今後も継続して自衛隊の素晴らしさを伝えたい」と熱く語っていた。

袋井所は、今後も入隊者と緊密に連携して帰郷広報を実施し、学校関係者の自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くす。



## 富士山こどもの国で自衛隊の活動や防災を紹介



こども防災寺子屋

自衛隊静岡地方協力本部富士土地域事務所（所長・本間亮3等陸尉）は10月16日（日）、富士山こどもの国（富士市）で開催されたイベント「はたらく車大集合」に参加した。

このイベントは、幼児や小学生等を対象に「さまざまな現場で活躍する働く車と仕事について詳しく聞こう」をテーマに同施設が開催した。新型コロナウイルスの影響により中止が続き、2年ぶりの開催となった。

会場には自衛隊車両のほか、消防車や救急車、ごみ収集車、積載車、ショベルカー、高所作業車が展示され、イベントを楽しみにしていた多くの家族連れが訪れた。

富士所は小型・中型トラックを展示するとともに子ども用迷彩服試着コーナーも設置して、自衛官気分での運転席に座ったり、写真撮影を楽しんでもらった。

子どもたちからは「後ろの荷台には何人乗れますか」「一番大変だった災害派遣はいつですか」などの質問があり、広報官が「東日本大震災は規模が大きく大変だったよ」と答えると、「僕も人の役に立ちたい！」と嬉しい言葉を聞くことができた。

また、同施設内の研修室ではこども防災寺子屋が開催され、依頼を受けた本間所長が「災害から命を守る」をテーマに幼児から小学校低学年の親子を対象に講話を行った。

命を守るための準備や災害時に取るべき行動について話した後、「命を守る簡単〇×クイズ」を行い、事前準備の大切さや慌てず行動するための意識づけを図った。最後は避難時に役立つ安全な姿勢を紹介し、姿勢による安定性の違いを体験してもらった。

富士所は、今後も地域のイベント等で自衛隊の活動や魅力を発信するとともに、身近に感じることができるよう広報を実施していく。



車両展示